

# ブラジルの政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を9.25%に引き下げ

7月26日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を1.00%引き下げ、年率9.25%とすることを全会一致で決定しました。7会合連続での利下げとなり、利下げ幅は前回と同様でした。利下げペースの維持は、市場参加者の大半の予想に沿うものでした。

## ポイント② 利下げペースを維持

良好なインフレ見通しの継続と、政治的な不確実性の影響が限定的であるとの見方を背景に、同中銀は2013年以来となる1桁台の水準への利下げを決定したと見られます。

足元のインフレ率（拡大消費者物価指数）は引き続き低下しており、6月は3.0%と同中銀の目標中央値である4.5%を下回り、目標レンジの下限水準に達しました。同中銀はインフレ動向について、「依然として望ましい状況が続いている」としています。

今後の見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2017年中については前回から0.5ポイント低下となる8.0%までの引き下げと、その後2018年末まで同水準に留まる）を前提としながら、2017年のインフレ率については3.6%、2018年については4.3%程度と、それぞれ前回から下方修正しました。

同中銀は、世界経済について「見通しは良好で、緩やかな回復軌道にある。新興国経済に対するリスク選好を支えてきた」としています。また、ブラジルの状況については、政治に不確実性がある中で経済が安定していることが利下げペースの維持を可能にしたことを強調し、今後の金融緩和の期間については、ブラジル経済の循環的要因と経済構造にふさわしい金利水準の両方を勘案しながら決定していく姿勢を示しました。

## ポイント③ 為替相場への影響は限定的

7月26日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比1.1%程度、対円で同0.5%程度のブラジルレアル高となりました。

図1：政策金利の推移

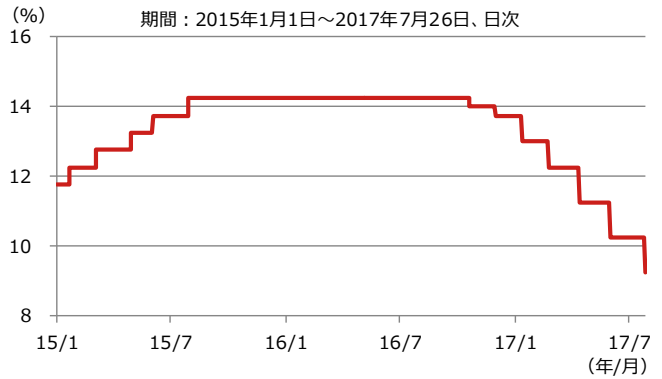


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

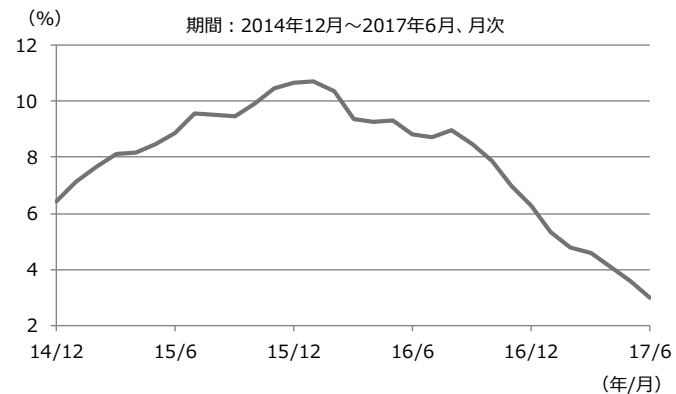


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

8月9日	IPCA (拡大消費者物価指数、7月)
9月1日	GDP(国内総生産、2017年4-6月期)
9月6日	金融政策発表